

## 平成二九（二〇一七）年度 哲学教室彙報

### 学事日程

二〇一七年四月六日 ガイダンスおよび新入生歓迎会

二〇一七年一〇—一二月 修士論文・卒業論文中間発表会（木曜日三・四限「哲学討論」にて順次開催）

二〇一八年三月二日 卒業・修了パーティ

### 卒業論文

市川 宙 「ハイデガーとサルトルにおける世界内存在」

蝦名 大智 「アレントの遠近法に関する考察——判断力を通して——」

知名 暁人 「定言命法によるカントの平和論についての考察」

中村 匠 「固有名の指示理論について——フレーゲ・ラッセルからエヴァンズまでの展望——」

西山 卓弥 「マルブランシュにおける自由について」

矢部 大貴 「道徳的ディレンマにおける徳倫理学的アプローチ」

### 修士論文

藤巻 恵太 「マルチメディアリス「エピグランマタ」における「ローマ」の意味」

三上 温湯 「ダメット意味理論の哲学的射程——理解・実践的能力・顕現化——」

### 博士論文

洪川 優太 「カントの実践哲学と目的論——「意志に従う自然」と「目的論的自然」、そしてその関連をめぐって——」

## 教員の業績

石川 求

「ワークショップ提題」石川 求「戦後の他者」、日本哲学会第七六回大会（一橋大学国立キャンパス）、公募ワークショップ「戦後」再考——加藤典洋『戦後入門』を手がかりに——、二〇一七年五月二二日

「書評」杉田聡著『福沢諭吉と帝国主義イデオロギー』（花伝社、二〇一六年）、『唯物論』第九一号、二〇一七年一月、一二八—一二三

〇頁

大芝 芳弘

「研究論文」大芝芳弘「Horatius, Carrn. 216 Otium divos」、『フィロロギカ』第二二号、二〇一七年六月、一五—四六頁

岡本 賢吾

「ワークショップ提題」岡本賢吾「結局、様相とは？——論理・形而上学・哲学史の界面で——」、科学基礎学会二〇一七年度例会（日本大学文理学部）、ワークショップ「様相の証明論と意味論の最前線：形而上学への接続再考」、二〇一七年一〇月二二日

「ワークショップ提題」岡本賢吾「Why Taking a Modal Point of View?——菊池誠著『不完全性定理』をめぐる——」、日本科学哲学会二〇一七年度大会（東京大学本郷キャンパス）、ワークショップ「菊池誠『不完全性定理』を読む——問題提起・著者の回答・全体討議——」、二〇一七年二月一九日

松阪 陽一

「研究論文」Youchi Matsusaka, "Reference and Pattern Recognition," S. Kurahashi et al. (eds), *New Frontiers in Artificial Intelligence, JS4isAI 2016 Workshops. Revised Selected Papers. Lecture Notes in Artificial Intelligence* volume 10241, Springer, 2017, pp. 62-73

「研究論文」松阪陽一「規則とパターン——後期ウィトゲンシュタインの洞察——」、『科学哲学』第五〇号（合併号）、二〇一八年三月

木田 直人

「学会発表」木田直人「叡智的延長という奇矯——マルブランシュの認識論の位置づけ——」（東京都立大学哲学会第四一回研究発表大会、首都大学東京南大沢キャンパス、二〇一七年七月八日）

「シンポジウム提題」木田直人「物の秩序と人の秩序——松永澄夫の哲学・近著『経験のエレメント』『感情と意味世界』を中心に——」

（立正大学哲学会二〇一七年度春夏大会、司会：湯浅正彦、提題者：松永澄夫・村瀬鋼・木田直人、立正大学品川キャンパス、二〇一七年七月一日）

「編集」『哲学すること——松永澄夫への異議と答弁——』（松永澄夫監修、渡辺誠・木田直人編集、中央公論新社、二〇一七年一月）

「共著論文」木田直人「木田直人による第九の異議——〈私〉と世界をつなぐ紐帯——」、『哲学すること』（中央公論新社、二〇一七年一月）所収、三七—三九七頁

「解説」木田直人「松永哲学への道案内」、『哲学すること』（中央公論新社、二〇一七年一月）所収、六二七—六七五頁  
井原健一郎

「研究論文」井原健一郎「デカルトの循環（九）」、『人文学報』（首都大学東京人文科学研究科、第五二四—二四八号（全号）、二〇一八年三月